

氏 名	廣田 智也
研修先機関名	Vanderbilt University Medical Center Department of Psychiatry/ Resident physician
<p>Vanderbilt 大学で精神科臨床研修を始めて 4 か月が経過しました。現在は精神科急性期病棟にて研修中です。好奇心だけを頼りに渡米しましたが、周りに支えながら今のところは happy なレジデント生活を送れています。</p> <p>他の先生方が書かれているのと同様に、渡米してしばらくは語学と医療制度の違いに苦戦する毎日でした。語学面では飛び交う略語やスラングなどに翻弄され、同僚に意味を確認しながら何とかやっています。医療制度面では、精神科においても米国の managed care が強く影響し、入院期間の短縮が目立ちます。入退院率の回転の速さにより、研修医は短期間で豊富な症例を経験できる一方で、患者さんの回復(精神疾患の場合、回復の定義は非常に難しいですが。)がみえるまでじっくり付き合うという精神科特有の醍醐味を経験することはできません。研修医として求められている役割も日本とは随分異なり、当初は随分戸惑いましたが、やはり臨床現場は楽しく、困難な状況・病気に罹った患者さん・その家族をどう治そうか、支えようか、と指導医や多職種スタッフとともに考えながら毎日を送っています。</p> <p>精神科卒後研修はレジデントの期間が 4 年間あり、1 年目は精神科研修と他科研修(内科・神経内科・救急など)を半年間ずつ行います。4 年を終えた後には指導医になるかフェローシップに進むか(もしくは帰国するか)を選択します。私は児童思春期の精神医学に興味があり Child and Adolescent Psychiatry の 2 年間のフェローシップに進む予定です。私は日本で 3 年間専門研修を終えた後に渡米したので、日米の臨床を比べながら米国のよい部分は取り入れ、さらに研鑽を積みたいと思います。</p> <p>今回、アメリカでの生活の立ち上げを含め渡米に際して、貴財団より頂いた助成金に大変助けられました。この場をかりてお礼申し上げます。</p>	